

「個人調書」、及び、「職務・研究等業績調書」の記載方法

「個人調書」、及び、「職務・研究等業績調書」の記載方法は、下記のとおりです。
なお、各調書の年月日は、全て西暦でご記入ください。

I 「個人調書」について

- 1 男・女は、不要な方を削除してください。
- 2 「年齢」欄について 任用予定年月日時点の満年齢を記載してください。
- 3 「本籍地又は国籍」欄について
日本国籍の者は本籍地の都道府県名を、外国籍の者は国名を記載してください。
- 4 「写真」は、デジタルカメラ等で撮影した写真を、電子的に貼り付けても結構です。
- 5 「学歴」欄について
 - (1) 学歴欄には、高校卒業からの学歴についてすべてを記載してください。
 - (2) 学部については、学科、課程名(専攻がある場合は専攻名)まで記載してください。
 - (3) 大学院については、研究科、修士課程・博士課程(博士課程前期・後期)及び専攻名を明記してください。
修士課程においては修士の学位を取得した者又は博士課程において博士号を取得した者にあつては、「修了」と記載してください。なお、博士課程を出て未だ博士号を取得していない者は、「博士課程単位修得満期退学」と記載してください。
 - (4) 外国留学については、学生としての留学(大学在学中のものを除く。)の場合のみ学歴欄に記載してください。大学院在学中における留学についても記載してください。
- 6 「職歴」欄について
 - (1) 職歴のすべてを記載するとともに、各職歴について、いつからいつまでの職歴であるか明確になるよう記載してください。
 - (2) 現職については、必ず「現在に至る」と明記してください。
 - (3) 大学の研究生、科目等履修生、聴講生の履歴は、職歴欄に記載してください。
 - (4) 外国留学については、研究者としての留学の場合のみ職歴欄に記載してください。
 - (5) 他の研究機関等での共同研究員等も記載してください。
- 7 「学位・免許・資格等」覧について
 - (1) 学位は、博士(P h. Dを含む。)の場合のみ記載して下さい。
 - (2) 免許・資格等は、研究遂行上重要と思われるものを記載して下さい。
- 8 「学会及び社会における活動等」欄について
 - (1) 学会については、所属学会名のほか、学会内での役職、委員、研究会活動(代表や幹事など)などについても記載してください。
 - (2) 社会における活動等については、本人の専攻、研究分野等に関連して、専門的知見を生かして社会に貢献する内容をもったものを記載してください。
- 9 「賞罰等」欄について
賞は、全国レベル以上の賞について、賞の名称・受賞題名、授与機関等を記載して下さい。
- 10 「その他特記事項」覧について
上記以外に記すべき事項があればご記入ください。無い場合は、「特になし」としてください。

「職務・研究等業績調書」について

1 職務上の業績について

応募資格の事項に相当する経験や活動の実績について、項目毎に担当した期間がわかるように記載してください。欄が不足する場合は、追加してください。

2 研究業績について

(1) 学術論文（査読付き）、参考論文、著書（編、訳書を含む）、学会発表（口頭発表、海外、国内別）、特許に分けて、合計の件数を記入してください。

参考論文とは、国際会議のプロシーディング、紀要、総説、解説記事等を言う。

(2) 学術論文（査読付き）、参考論文、著書（編、訳書を含む）、学会発表（口頭発表、海外、国内別）、特許に分けて小見出しをつけ、業績リストを作成してください。

なお、博士論文については、その旨を付記してください。

(3) 業績リストは、欧文と邦文とに分け、下記を年代順（過去 現在）に番号を付して記載してください。

学術誌の場合は、著者名、題名、雑誌名、巻、号、最初と最後の頁、発行年（西暦）がわかるように記載してください。

著書の場合は、著者名、題名、書籍名、執筆を担当した最初と最後の頁、発行所、発行所の所在地、発行年（西暦）がわかるように記載してください。

特許については、発明者、発明の名称、出願番号、出願日を記載してください。

なお、各記載事項（題名、雑誌名、巻、号など）の順番は、必ずしも前述の通りでなくてもかまいません。

(4) 上記の内、主要な業績（5編以内）について、300文字程度以内でその概要を記載してください。なお、番号については、例えば、査読付き論文の3番目の論文の場合には「A・欧文-1」、国際学会の学会発表の1番目の場合には「DI・1」などと、業績リストと対応した番号を記入してください。

(5) 概要を記した業績については、別刷りやそのコピーなどを1部提出してください。

3 外部資金獲得状況

自らの研究で外部資金を獲得した実績がある場合は、その実績を記入してください。その場合、研究代表か分担者かを明記してください。

科学研究費補助金の場合は、研究題目も記入してください。

その他

(1)外国人の場合は、母国語で記載して差し支えありませんが、その場合、必ず訳文を添付してください。

(2)各欄が不足する場合は、適宜、増やしてください。また、不要な空欄は削除して下さい。

個人調書(記入例)

2015年10月1日現在

ふりがな	しまだい とろう	男	生年月日	年齢
氏名	島大 太郎		1975年9月1日	40歳
現職	島根大学 産学連携センター 産学連携コーディネータ			
本籍地 又は国籍	島根県			
現住所	〒690-0816 島根県松江市北陵町2番地			
電話番号	(固定) 0852-60-2290 (携帯) 090-0000-0000			
電子メールアドレス	crcenter@ipc.shimane-u.ac.jp			



【学歴】

年月日	学歴
1994年3月	島根県立 高等学校卒業
1994年4月	島根大学総合理工学部 学科入学
1998年3月	島根大学総合理工学部 学科卒業
1998年4月	島根大学大学院総合理工学研究科博士前期課程 工学専攻入学
2000年3月	島根大学大学院総合理工学研究科博士前期課程 工学専攻修了

【職歴】

年月日	職歴
2000年4月	株式会社 入社
	開発本部 松江研究所 研究員として の研究に従事
2010年3月	株式会社 退職
2010年4月	国立大学法人 島根大学
	産学連携センター 産学連携コーディネータとして産学官連携活動に従事，現在に至る

【学位・免許・資格等】

学 位	学位の種類	(大 学)	取得年月日	年 月 日
	学位論文名			
年 月 日	免 許 ・ 資 格 等			

【賞罰等】

年 月 日	学 会 賞 等

【学会及び社会における活動等】

年 月 日	学 会 及 び 社 会 に お け る 活 動 等

【その他特記事項】

--

年 月 日	上記のとおり相違ありません。
	氏 名 _____ 印

職 務 ・ 研 究 等 業 績 調 書 (記 入 例)

2015年10月1日

氏名 島大 太郎 印

【職務上の業績】(職務上の実績についてご記入ください。)

事 項	期 間	概 要
(職務上の業績) 1) の研究開発の推進	1990.5 ~ 1995.7	株式会社 研究所の研究者として、 の研究に従事し、 を明らかにした。研究成果をまとめ、論文(査読付き)3件を執筆し、特許5件を出願した。
2) 産学連携のリエゾン活動の推進	1995.8 ~ 2012.3	大学産学連携センターに産学連携コーディネータとして在籍し、共同研究や産学連携の企画推進を行った。これまでに、研究シーズをとりまとめて発信する、各種イベントで紹介する、新技術説明会などの発表の場を企画し実施するなどの活動を行っている。その成果として、共同研究15件、プロジェクト研究4件などに結びつけた実績がある。
3) 外部資金獲得の支援	2012.4 ~ 現在	大学 URA 室に URA として在籍し、外部資金獲得のサポートを行った。これまでに、科研の申請支援 件(内採択 件)、JST の 事業への申請支援 件(内採択件)、NEDO の 事業などへの申請支援 件(内採択件)の実績がある。
4) 研究成果の調査、広報	2012.4 ~ 現在	大学 URA 室に URA として在籍し、学内の教員を訪問して、研究成果を調査し、シーズ集や広報誌として紹介した。合計 件。成果として、 シーズ集や広報などの記事がある。
5) MOT に関して	2012.4 ~ 現在	これまでに、MOT セミナーや 大学の講義を受講し、理解を深めてきた。また、共同研究の推進で企業のサポートを行い、 の実用化に結びつけた。
6) 教育に関して	2012.4 ~ 現在	大学 URA 室に URA として在籍し、MOT の講義の研究開発事例のコマを担当している。 2013年12月に実施した MOT セミナーで事例紹介の講師を務めた。

【研究業績】

学術論文（査読付き）	編（欧文	編，邦文	編）
参考論文等（査読無し）	編（欧文	編，邦文	編）
著書	編（欧文	編，邦文	編）
学会発表	回（国内学会	回，国際学会	回）
出願	件		

業績リスト

A. 学術論文（査読付き）

（欧文）

1. Shimane T, Rich EC, Crowson TW, Harris IB (著者名): Oxidative DNA damage accumulation in (題名), Am J Gastroenterol (雑誌名), 42 (2) (巻号), pp.351-356 (始頁-終頁), 2015 (発行年)
2.

（邦文）

1. 島根太郎, 出雲次郎: 産学連携の効果, 産学連携学, 20(2), pp.123-129, 2011
2.

その他必要な項目があれば追加してください。

B. 参考論文等（査読無し）

（欧文）

1. Shimane T, Rich EC, Crowson TW, Harris IB (著者名): Oxidative DNA damage accumulation in (題名), Am J Gastroenterol (雑誌名), 42 (2) (巻号), pp.351-356 (始頁-終頁), 2015 (発行年)
2.

（邦文）

1. 島根太郎, 出雲次郎: 産学連携の効果, 大学紀要, 20(2), pp.123-129, 2011
2.

その他必要な項目があれば追加してください。

C. 著書

（欧文）

1.
2.

（邦文）

1. 山田太郎, 島根太郎: 地域イノベーションと産学連携, 産学連携入門. 出雲一郎編. pp.20-30, 島根書院, 東京, 2007
2.

その他必要な項目があれば追加してください。

D. 学会発表

D I. 国際学会

1. Taro Shimane and H.Kata, Utilization of waste wood, Congress Proceedings Vol.1, The 12th Int. MOT congress. pp.39-42 (Melbourne, Oct., 2000)
2.

DD. 国内学会

1. 島根太郎, 出雲次郎: 産学連携とMOT……, 産学連携学会第13回大会講演予稿集, pp.10-12, 北見市, 2015.
2.

その他必要な項目があれば追加してください。

E. 特許

1. 島根太郎, 松江花子: 高性能半導体材料, 特願平5-088595 (1993.4.15)
2. 島根太郎, 松江花子: 高性能半導体の製造方法, 特願2013-088595 (2013.6.1)

主要な業績の概要 (合計で5編以内, 当該論文等の別刷りやコピーを1部添付してください.)

番号	題目	概要 (300文字程度以内)
A . 欧文 - 1	Oxidative DNA damage accumulation in	について検討し, を明らかにした。
A . 邦文 - 2 産学連携の効果	について検討し, を明らかにした。
D I . 1	Utilization of waste wood	

外部資金獲得実績

1. 科学研究費補助金 若手研究 (B) (2013年-2015年)
「(課題名)」 万円 代表研究者 / 研究分担者
2. 共同研究 (企業 / 企業以外) 万円, 2011 ~ 2013年 代表研究者 / 研究分担者
3. 受託研究 万円, 2011 ~ 2013年 代表研究者 / 研究分担者

その他必要な項目があれば追加してください。